

2011-12年度 テクニカル・コーディネーター

委員長と副委員長

Michael Webb (英国)

Francis Tusubira (ウガンダ)

「基本的教育と識字率の向上」

Sylvia Byers (オーストラリア)

Madhumita Bishnu (インド)

John Thorne (オーストラリア)

「母子の健康」

Keith Barnard-Jones (英国)

Patricia Canning (オーストラリア)

Stanley D. Fike (カナダ)

「疾病予防と治療」

Manoj Desai (インド)

Jos Nolle (カナダ)

Josephine Min-Ling Wong (台湾)

「経済と地域社会の発展」

Elio Cerini (イタリア)

Amégnizi Maurice N. Etorh (トーゴ)

Cecilia Reyes (フィリピン)

「平和と紛争予防／紛争解決」

Michael Barrington (米国)

Caleb E. Lucien (米国)

Joel M. Nagel (米国)

「水と衛生設備」

Camilo A. Calvo (米国)

Kurt Bay (スイス)

Brian E. Foley (オーストラリア)

委員長からのメッセージ

Michael Webb

最近、専門家グループに多数の新メンバーを迎え、任務を果たしていただいていることを、大変嬉しく思います。専門家グループの強みは、異なる言語を話し、さまざまな専門技術と知識を備えて、各国から参加するメンバーの多様性にあります。しかし、保健や水と衛生といった分野においては、まだまだ開拓の余地があります。5月4日(金)にタイ、バンコクで開催予定の研修会で、このニーズについて話し合いたいと考えています。皆さんには、ぜひともこの研修会にご登録いただきたいと思えます。参加費は無料ですが、会場や軽食などの手配のために、正確な参加者人数の把握が必要となります。多くの皆さんにご参加いただけることを楽しみにしております。

現在、専門家グループ・コーディネーターの責務内容の資料の見直しが行われており、近日中に改訂版がオンライン(専門家グループの共有サイト)でご覧いただけるようになります。専門家グループ・コーディネーターには、2012-13年度のはじめに、専門家グループにより記入された評価書に目を通していただきます。財団職員も各評価書を読み、補助金プロジェクトの進捗と評価自体の質を確認します。専門家グループ・メンバーによって行われ

た前回の評価の質が、次の任務を決める一要素となります。皆さんには、ニューオーリンズ研修会のプレゼンテーション「What Makes a Good Evaluation(優れた評価方法とは)」をご覧ください。また、報告の質を高める目的で、評価書には写真を添付するようお願いいたします。

現在RIおよびTRFでは、財団資金を補助金としてより生産的に生かすために、プロジェクトの立案から実施、監督までのプロセスにおいて、ロータリアンの専門知識をどのように活用すべきかについて話し合いが行われています。専門家グループもこの話し合いに参加しており、今後も引き続き関わっていく予定です。専門家グループには、これまでどおり補助金の計画書を審査し、現地視察を行い、資金管理委員会を通じて管理委員会に報告する役割が期待されています。

この機会を借り、専門家グループのために、また、財団資金の保護のためにご尽力くださっている皆さんに感謝申し上げます。

委員長、マイク・ウェブ

素晴らしい現地視察の体験

アフリカの真珠と呼ばれるウガンダ

ウィリアム ロブソン 第5050地区DRFC



ウガンダの小口融資プロジェクトの受益者を訪ねるビル・ロブソンさん

留意点:本報告では、情報保護の観点から、プロジェクト実施地名や提唱組織名などに、仮名が使用されていますのでご了承ください。

ウガンダを「アフリカの真珠」と名づけたのはウィンストン・チャーチル卿であると言われています。また、ウガンダの肥沃な土壌をたとえて、朝に杖を大地に突き刺したなら夕べには根を生やしているだろうと言ったという説もあります。

私がウガンダのカンパラを訪問したのは、スーダン国境付近で実施されたエチオピアの全国予防接種日に参加した直後のことでした。すでにアフリカ行きが決まっていた私は、向こうで専門家グループの役に立ちたいとボランティアを申し出たところ、保健、飢餓追放および人間性尊重(3-H)補助金プログラムの中間視察と評価の実施という任務をいただき、喜んで引き受けることになったのです。プログラムは、孤児を対象に教育面と人道面で援助を提供すると同時に、HIV/エイズを患う成人を対象に小口融資の機会を提供するものでした。銀行家だった私にとって、このプログラムの小口融資に関わる部分は、特に興味深いものでした。

私を車で出迎えてくれた現地のロータリアンの運転で、ウガンダ南部へと赤道を横断し、プロジェクト実施地に到着しました。その後3日間、私はアフリカ大陸で最も貧しい人々が3-H補助金の恩恵を受けている様子を目の当たりにしました。そこには、たとえどんなに貧しくとも、機知と活力に満ちた人々の姿がありました。

1日目に出会ったのは、小口融資を通じて10万シリング(約3,200円)を借り、妊娠豚を購入した若きシングル・マザーでした。この女性は、その雌豚を元手にわずか2年間で、若い猪1頭、雌豚1頭、子豚5匹の小さな豚舎を切り盛りするようになり、さらには子豚を売った利益で小さな雑貨屋をオープンしました。この彼女の「帝国」には、現在100万シリング(約32,000円)以上の値がついています。日本や欧米から見れば小遣い程度の額かもしれませんが、ウガンダの庶民にとっては信じられないほど巨額な富なのです。この成功のおかげで、彼女の息子の将来も、ウガンダで成功する可能性に満ちたものになったでしょう。

2日目には、38名から成るロータリー地域社会共同隊(RCC)のメンバー数名に会いました。ロータリアンの集会で、共同隊の副会長が15分間のプレゼンテーションを行い、最近達成した事柄を報告するとともに、今後の計画について語りました。副会長を務めるその女性が、共同隊が結成される以前、読み書きができず、公の場で話をしたこともなかったと知り、私はあまりの驚きに言葉を失うばかりでした。

3日目は、プロジェクトの教育面で恩恵を受けている学校を訪問しました。貧しい家庭の生徒たちは、授業料から制服、学用品に至るまで、すべてロータリーから援助を受けています。

はじめてのアフリカ訪問でしたが、大変豊かな経験となりました。

ロータリーの活動には、ただ「感動！」のひとことです。

W.「ビル」ロブソン

第5050地区DRFC

カナダ、ブリティッシュコロンビア州、クローバーデール・ロータリー・クラブ

最近の現地視察



ウガンダ・プロジェクトの恩恵を受けた生徒たち



財団補助金プロジェクトが支援するスリランカの小児サラセミア療法センターを訪れたバブ・チャッコ元地区ガバナー



口腔外科センター支援プロジェクトを視察するため、ネパールを訪れたラメシュ・カルカレさん(右)

妊産婦と子供の健康改善に向けて職業研修チームが貢献

「CALMED」と呼ばれるモデルの紹介

ロータリーの未来の夢計画に、人道奉仕の新しい部門が開かれました。この新たな展開は、職業研修チーム(VTT)の実践的なスキルの指導を通じて実現されます。奉仕の新モデルの実施に伴う課題と機会は、ロータリアンの中でもとりわけ専門家グループが関心を寄せる問題を浮き彫りにしてくれます。ここでは、妊産婦の健康状態の改善(ミレニアム開発目標5.A)に焦点を当ててみましょう。

世界中で毎分、妊産婦1人と新生児6人が死亡しています。そのうちのほとんどが、アフリカとアジア亜大陸で起きています。これらの死の大半は、出産に携わる専門家に実践的な研修を提供し、出産のための安全な施設を増やし、地域社会全体に出産に関する知識と理解を浸透させることにより避けられるものです。このような重要な対策は、グローバル補助金を活用する職業研修チームの手で実現することが可能です。

「CALMED」(出産時死亡率低下への共同取り組み)と呼ばれるモデルでは、妊産婦および新生児を対象とする救急処置法について、実践的なアプローチにより研修者を教育することに焦点を当てています。その研修は、グローバル補助金の支援を受けて発足した職業研修チームが各プロジェクト地に赴き、実施するものです。この取り組みは、救急産科医療の研修を専門とする経験豊かなプロの集まりである同チームが、現地のロータリー・コミュニティ、保健省、専門家たちからの協力を得て進められます。

まず、職業研修チームによる研修を終えた現地の研修者は、死亡率の高い遠隔地へ赴き、そこで保健医療に携わっている人々の指導に当たります。「魚を一匹与えれば、その日の食事に

困らない。魚の釣り方を教えれば、一生食事に困らない」というたとえ話を、皆さんよくご存知でしょう。しかし、職業研修チームは魚を与えたり、魚の釣り方を教えるにとどまらず、漁業を立ち上げ、漁業関連の学校を設立し、その成果が末永く持続できるまで視野に入れているのです。この研修者の教育指導を通じてもたらされる連鎖的な影響こそが、本プログラムの真髄といえるでしょう。

2番目のステップは、生死にかかわるような遅れを防ぐため、活用可能なリソースの監査実施を確認する作業です。救急産科医療では、妊娠中・出産時の合併症に対処する際に起こりうる「3つの遅れ」(1.深刻な問題発見の遅れ、2.交通手段の遅れ、3.医療施設での治療・処置の遅れ)を明確にしています。遠隔地から医療機関までの処置の経路を追跡するには、救急車のアクセス、携帯電話による連絡網、救急補助隊員、関連装置・備品、血液、基本的な医薬品が必要です。

3番目のステップは、地域の人々を動員することを目的として、遠隔地にボランティアと現地スタッフから成る女性グループを設立することです。このグループは、母体の保護、家族計画、子供の予防接種などの基本的な教育と理解の向上に努めるとともに、地域全体が「CALMED」のモデルを自分たちの手で育ていけるよう支援します。

最後のステップは、死亡率の統計と警告の指標から成る基本データおよび継続データの収集です。この指標には手術の実施率や女性グループの数といったプロセスの指標が含まれます。このように継続的にデータを収集することで、プログラムの成果を容易に評価することが可能になります。

タイ、バンコクで行われる2012年RI国際大会にて、「CALMED」のワークショップ

が開催される予定です。日時は5月9日(水曜日)午後2時半から4時まで、会場はIMPACT Convention Center (Room Sapphire 10)です。参加ご希望の方は、drhbasumd@gmail.comまで詳細をお問い合わせください。



研修会にて

奮ってご参加ください

5月4日(金)

今回の専門家グループ研修セミナーは、5月4日(金)、タイ・バンコクにあるImpact Center(インパクト・センター)で開催されます。このセミナーは、財団の全専門家はもちろん、同会場で開催される2012年RI国際大会に参加するすべてのロータリアンを対象としています。専門家グループの一員となることにご興味のある方、ロータリー財団補助金資金の適切な管理についてもっと知りたい方は、研修セミナーに終日参加することをお勧めいたします。詳細は後日お伝えします。



これだけは知っておきたい未来の夢知識

2013年7月1日、未来の夢計画によって打ち出されたロータリー財団の新しい補助金モデルが、ロータリー全地区に導入されることとなります。現在は、3年間にわたり補助金構成を試し、その成果を判断するため、100地区が未来の夢試験段階（パイロット）に参加しています。

専門家グループからも数人のメンバーが、既に試験段階の補助金評価に携わっています。2013-14年度が近づくとつれ、私たちは新しい補助金構成の評価に向けて更に専念することになるでしょう。そこで、未来の夢計画について、そして新補助金モデルへの移行に備えて知っておくべき事柄を以下にまとめてみました。

未来の夢とは？

未来の夢計画は、地区やクラブの人道的プロジェクトと教育的プロジェクトを支援する、ロータリー財団の新しい補助金構成です。新しい補助金モデルの下では、クラブと地区がより大きな成果をあげられる機会が用意されているほか、クラブの強化、会員基盤や寄付者ベースの増強、公共イメージの改善、地元の奉仕活動への関心を高めるなど、さまざまな可能性を試すことができます。簡素化と柔軟性がこの計画の特徴となっており、補助金の申請もオンラインでできます。

新しい補助金モデルを開発した理由とは？

財団は、奉仕の第二世紀に近づくとつれ、ポリオ撲滅の完遂を視野に入れ、未来に向けて組織を改革し続けていくための機会を明確にする必要性を認識するに至りました。財団の100周年とポリオプラス・プログラムから得た貴重な教訓から、未来を見据えた新たな財団へのアプローチが誕生したのです。

このアプローチの一環として、財団は限られたリソースをより効率的に活用する必要性を認識しました。2007年、財団が大規模かつ多大な成果を期待できる補助金プロジェクトに充てた資金は年次プログラム予算の20パーセント、一方、短期的で非常に限られた成果しか期待できないプロジェクトに充てた資金は予算の80パーセントでした。新補助金モデルでは、これを逆転させ、80パーセントを持続可能で大きな成果が期待できるプロジェクトに使用することを目指します。質の高いプロジェクトを実施し、大きな成果をあげれば、ロータリー・クラブやロータリーの公共イメージも高まり、会員と寄付者の増加にもつながるでしょう。

2種類の補助金

新補助金モデルの下で財団が提供するものは、新地区補助金とグローバル補助金の2種類のみです。一方、グローバル補助金は、大規模で国際的なプロジェクトを支援し、重点分野に関連して持続可能かつ測定可能な成果が期待できる人道的プロジェクト、職業研修チーム、奨学金などに使用できます。新地区補助金は、資金が一括して支払われ、クラブと地区が地元や海外の差し迫ったニーズに取り組む目的で利用できる非常に柔軟性の高いものです。

グローバル補助金は、審査上の目的で現在、レベル1、レベル2、レベル3に分類されています。支給額15,000～50,000米ドルのレベル1は、ロータリー財団職員が審査を行います。支給額50,001～100,000米ドルのレベル2では、専門家グループによる専門的審査と現地視察（中間視察）が必須とされます。支給額100,001～200,000米ドルのレベル3になると、専門家グループによる専門的審査と現地視察（中間視察）に加えて、事前現地視察と監査が義務付けられます。

専門家グループの監査役は、上記の審査だけでなく、無作為の監査を依頼されることもあり、グローバル補助金と新地区補助金の両方に継続して関わっていきます。このほか、毎年地区の業務監査も行い、専門的なりソースをさまざまな形で提供していきます。

持続可能性とは？

ロータリー財団は、「持続可能性」を、「補助金資金がすべて使い果たされた後も、引き続き地域社会のニーズに応えるために、プロジェクトによってもたらされた成果を長期的に持続できること」と定義しています。持続可能なプロジェクトでは、通常、計画の段階から現地のリーダーが関与しているため、長期的な成果を目指す姿勢が育まれます。したがって、ロータリーが投資する資金やボランティアの労力に対しての見返りが大きく、長く持続されることとなります。グローバル補助金は、人々の自立を助けるものだとも言えるでしょう。

専門家グループのメンバーがグローバル補助金プロジェクトを監督する上で、持続可能性が重要なポイントの一つとなり、専門的審査と現地視察を通じての評価が必要となります。



メディアキャンペーンの受益者であるネパールの障害者を訪問したヒマンシュ・サッカー元地区ガバナー

これだけは知っておきたい未来の夢知識

6つの重点分野とは？

グローバル補助金は、以下の6つの重点分野に焦点を当てたプロジェクトに活用することができます。

- 平和と紛争予防／紛争解決
- 疾病予防と治療
- 水と衛生
- 母子の健康
- 基本的教育と識字率向上

経済と地域社会の発展

これらの分野は、ロータリアンが既に世界中で取り組んでいる緊要な人道的問題であるとして特定されました。

資金管理担当職員

金本美利

マネージャー

miri.kanemoto@rotary.org

サラ・クリステンセン

地区支援スペシャリスト

sarah.christensen@rotary.org

クリスチャン・ペペラ

シニア・コーディネーター、専門家
グループ

christian.pepera@rotary.org

タニア・デュボン

会計監査スペシャリスト

tannia.dubon@rotary.org

ラジャシュ・アナン

会計監査シニア・コーディネーター
南アジア事務局、インド

rajesh.anand@rotary.org

ロータリー財団管理委員会も、これまでロータリアンが関心を傾け経験を積み重ねてきた分野に的を絞ることで、会員の熱意をいっそう促し、プロジェクトを成功に導びけると考えています。

専門家グループは、監査を担当するグループに加え、6つの重点分野ごとにグループが分かれています。

クラブと地区にとっての利点

新補助金モデルの下では、クラブと地区にとってほかにどのような利点があるか、以下にまとめてみました。

- **補助金種類の簡素化:** 補助金の種類は、これまでの12種類から2種類(グローバル補助金と新地区補助金)に減りますが、各補助金の下で実施できる活動の多様性は変わりません。
- **合理化と明確化:** 補助金の支払いがより明確かつ迅速に行われ、クラブと地区は、申請から承認までの全プロセスを通じて手続き状況を随時確認できます。
- **DDF額と柔軟性の増加:** 地区は、新地区補助金として地区財団活動資金(DDF)の50パーセントまでを申請できます。すなわち、より多くのプロジェクト資金が確保でき、DDFの決定権も増えます。新地区補助金は、従来の研究グループ交換や奨学金のようなプロジェクトを含め、ロータリー財団の使命に沿った幅広い活動を、地元および海外で実施するために使用できます。
- **測定可能な成果:** 補助金のモニタリングと評価を実施することにより、補助金の提唱者とロータリー財団にとって貴重な情報が得られます。例えば、プロジェクトの恩恵者の数を把握し、それを伝えることができれば、そのプ

ロジェクトに対する一般の人々からの理解や協力も得やすくなります。

- **プロジェクトのオプション:** グローバル補助金では、クラブと地区が海外のパートナーと協力して独自にプロジェクトを立案できるほか、ロータリー財団の戦略パートナー(協力組織)との協力によるパッケージ・グラントに参加することもできます。パッケージ・グラントでは、あらかじめ活動の枠組みが定められており、国際財団活動資金(WF)から資金の全額が提供されます。

未来の夢への移行に備えて

試験段階に参加していない地区は、移行への準備を今から開始すべきです。現地区ガバナー・エレクトは2012年度国際協議会で既に研修を終えており、新しい補助金構成の実施が全世界で一斉に導入される年に任期を務める地区ガバナーおよび地区ロータリー財団委員長は、2013年度国際協議会で研修を受ける予定です。この研修では、オンラインによる参加資格認定手続き、クラブへの研修と参加認定の実施、全面導入開始前のロータリー財団補助金への申請について指導を受けます。地区は、クラブの研修と参加資格認定を目的とした補助金管理セミナーも主催します。

未来の夢への移行については、[RIウェブサイト](#)に最新の情報とリソースが掲載されていますので、ぜひご覧ください。また、[未来の夢ニュースレター](#)の受信を申し込むと、毎月無料でEニュースレターを受信することができます。